

会 議 記 録

会議名称	第 2 回杉並区社会教育委員の会議
日 時	令和 7 年 9 月 1 日（月）午後 3 時 06 分～午後 4 時 59 分
場 所	中棟 4 階 第 2 委員会室
出席者	委員 奥山、加藤、齊藤、宮田、天野、荻上、佐藤、笹井 区側 生涯学習担当部長、生涯学習推進課長、中央図書館長、 学校支援課長、社会教育センター所長、管理係長、 社会教育推進担当係長（社会教育主事）、 社会教育センター社会教育推進担当係長（社会教育主事）、 社会教育センター社会教育主事
配付資料	<p><配布資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 第 1 回社会教育委員の会議記録 『社会教育活動が地域に広がるために』第 18 期社会教育委員の会議 まとめ 今期の会議予定について 青少年問題協議会委員の推薦について <p><参考資料>委員のみ配布</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和 7 年度「杉並区の教育」 令和 7 年度「小学生名寄自然体験交流事業」参加児童募集チラシ 社会教育センター「地域活動のファシリテーターになろう!」チラシ 社会教育センター「すぎなみ大人塾」総合コース チラシ 青少年委員だより第 84 号 大人と子ども、地域と学区をつなげる、地域発＜教育情報誌＞なみ すく 2025 年夏号
会議次第	<p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 第 18 期社会教育委員の会議のまとめについて 今期の会議予定について 杉並区青少年問題協議会委員の推薦について <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 検討課題の設定に向けて 今回・次回のテーマ（案） （ア）目的的不是な学びの大切さ （イ）子ども・若者に必要な学び （ウ）学校施設が地域の社会教育の中心的存在として機能するには （エ）人と関わることで生じる生きづらさへのケア・回復 （オ）他者との関わりから自覚する自分が求める学び

	2 今期の進め方について Ⅲ その他
(意見要旨)	
<p>○議長 はじめに、生涯学習担当部長からご挨拶をお願いします。</p> <p>○生涯学習担当部長 今期の検討課題についてご議論いただきますが、印象として名称に堅さを感じるので、社会教育委員の会議はそのままに、愛称を付けてもいいのではないかと思います。そのことも皆様で話していただけたらと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>○議長 資料確認をお願いします。</p> <p>○社会教育推進担当係長（社会教育主事） （資料の確認）</p> <p>○議長 報告事項1番目ですが、「第18期社会教育委員の会議のまとめについて」事務局からお願いいたします。</p> <p>○社会教育推進担当係長（社会教育主事） （まとめの概要について説明）</p> <p>○A委員 「社会教育活動に係る支援を充実させるために」の部分を読んで、例えば地域の課題を社会教育で解決していこうというところが大きいなら、社会教育センターには地域に出ていく部署や職を設けて積極的にやっていく方がいいと思いました。</p> <p>○社会教育センター社会教育推進担当係長（社会教育主事） これまで地域割りをして担当をつける形式での業務は行っておりません。むしろ、地域の中で相談先としての仲間をつくることを中心とする事業展開で、人と人との関係を中心とした機会をどうつくるかということに腐心してきたところがあります。</p> <p>次のステップとして、主催事業のつながりだけではなく、社会教育というキーワードで出会える人たちとのつながりを別のチャンネルで多様につくれる可能性があると思います。今後は、社会教育センター事業の展開を絡めながら、地域単位で何かをするときの小さな関係づくりに力を入れ、それを網羅できるようにすることが今後の課題と思っています。</p> <p>○議長 報告事項の2番目、今期の会議の予定についてお願いします。</p> <p>○社会教育推進担当係長（社会教育主事） （資料説明）</p> <p>○議長 報告事項の3番目、青少年問題協議会委員の推薦についてお願いします。</p> <p>○社会教育推進担当係長（社会教育主事） 任期満了に伴い、新たに委員を推薦する必要がありますので、議長と相談させていただきます。</p> <p>○議長 協議事項に移り検討課題の設定ということで、前回の会議では区の社会教育について感じていることをざくばらんに出していただきました。目的ではない学びが大切、子どもや若者に必要とされている学びについて、学校施設が地域の社会教育の中心的存在としてプレゼンスを発揮するにはどうしたらいいのか、生きづらさに何かケアできないか、他者との関わりから気づきのような学びについてといったお話をいただきました。</p> <p>これらも踏まえて、今期の社会教育委員会ではこんなことを議論したらどうかということがありましたら、自由に出していただきたいと思います。</p> <p>○B委員 話が割と多岐に渡るので、どの時点かで絞るのか、絞る必要があるの</p>	

かなど、まだちょっと分からないというか…。

○議長 今日フリーで、次回は今日の議論をふまえて少し収斂した議論にできればと思っています。

○B委員 いろいろなテーマがたくさん出てきて絞るようになるかもしれませんが、多様なものをどう維持しまとめるかが、今の関心事になっています。

○議長 例えば、図書館はなぜ存在しているか。本を読んだり借りたりという場所ですが、実はあれは社会教育です。読書は個人学習ですが、図書館という場に身を置くことで自分なりの関心が芽生え、集まること自体に意味がある社会教育施設です

多面的な入口や問題意識は人が集まることによって可能になるのではないかと思います。自由に集まる場、刺激し合える場をどうつくっていくのかが大事だと思います。

○A委員 地域の課題の中で外国にルーツのある子どもの日本語の学習の問題が大きくなっています。別室で日本語を学ぶ取り出し授業はありますが、教員免許が必要なため、担当できる方が少なくなっています。地域の人間が外国にルーツのある子どもに日本語を教えることは、多文化共生の地域づくりに役に立つところなので、社会教育の立場から地域で何ができるか考えていけるとおもしろいと思います。

○C委員 社会の分断や情報の偏りから居心地のいい場所だけで完結して他を知らないという状況の中で、いろいろな物の見方や価値観に気付きを得られるのが社会教育だと思いますが、そうした場につながる発想すらないのが問題ですし、働きかけが非常に難しいです。

せめて子どもたちには、いろいろな価値観があることを教えて、伝えて、感じていくことが私たちのやるべきことではないでしょうか？教えるというよりも見せていく、当たり前前に考えて育っていくところに社会教育がうまくサポートできるような仕組みをつくると、いろいろな知見を持った人たちがそれを生かせるし、子どもたちにとっても生きやすい学びの場になっていくと感じたので、うまく両方がリンクするといいと思いました。

○D委員 違う流れになりますが、区民意向調査では生涯学習についてどんな結果が出ているか、話の素材としてあるといいなと思いました。

○E委員 テーマを話し合いまとめて、どう活用されるのでしょうか？

○議長 社会教育行政はシステム化されていないため、環境整備や事業化といった方法で行われます。まとめを作った段階で、制度や事業という形で実現する、自発的に活動するよう住民にもお願いするといったようになるのだと理解しています。

○E委員 人と関わることで生きづらさを感じる人へのケア・回復というのが課題だと思います。これまで関わった社会教育事業は福祉寄りだったので深掘りしたいと思いました。人と関わるのが嫌な人たちに対して、どうやってケアとか回復の方法を伝えられるのか。講座に足を運ぶこともやらないと思います。

ただ、関わりたくないのが本心なのか、本当は関わりたいと思っているんだけどその一歩が出ないのか、一緒にたにしないで考えた方がいいと思います。

○F委員 ボランティア活動で知り合った人が、自分の世界から出ない人を引き

込むのは大変だけれども、小学校や地域という小さなコミュニティで引き込めたらいいのではないかと話していました。社会教育センターや社会福祉協議会といったものが地域にたくさんあるといいと話されていて刺激になりました。

○G委員 高齢化社会で、今までは関心がなかった大人も、何かとつながることで自分をさらに高める機会にアクセスすることができるようになると思います。杉並区はポテンシャルが高いので、いろいろな活動が「見える化」されていると、多くの人がもっと参加できるのかなと思いました。

○B委員 地域の人が何となく集まれる場をつくる中で思うのは、地元ですごく行く人と、地元じゃないところに行く人、ある程度の匿名制をもって関わった方が気楽だという人が、結構たくさんいて、うまい距離感みたいなことが分かっているのと、地域の中ならみんな仲よくなれるとか、あれができるよとか推しても全然反応しないと思います。関わり代をうまく設計しておかないと全く引っかからない。杉並区はポテンシャルがあるといいますけど、同じ人に同じようなものが届いているような気がします。

○G委員 そうそう。

○B委員 振舞い方を変えていかないと、はまらない気がします。難しい状況にあったとしても、関われるチャンスは少しずらしたところに入口を作っていた方がいいかなと思います。

○C委員 人と関わるのが嫌だと見えてしまうけれど、原因をつくったコミュニティでうまくいかなかっただけで、誰かとつながりたいという思いは感じていると思います。ただ、外に出ようとするとうまみみたいなものがフラッシュバックしてしまうことがあって、別のコミュニティなら関わり合えるよと安心感を与えて、場を上手につくっていくことが大事なのではないかなと思います。

それから、0から1歳児のお母さんたちは遠くにいいものがあったとしても出かけられないので、いろいろな立場の人たちがそれぞれ自分の居場所を感じられるようなものを作っていくとはいけないのかなと思いました。

○議長 学校教育だと半強制的な部分がありますが、社会教育は100%自発的じゃなきゃいけない。だから「このコミュニティがいいですよ、どうぞ」と言うのも余計なお世話で、自発的に面白そうだと行ってみようという環境づくりをしないといけない。人も距離感もコミュニティもいろいろだから、社会参加して自分で見つけるように、つながってもらえるようにするというわけですが、実際に困っている、どうしたらいいのか分からない人もいるわけですから、その辺のフォローは自発的につながっていく環境がつかれないかなと思っています。

○A委員 どこで生きづらさが生じるかといったら、主に職場と学校だと思います。そうでないサードプレイスが有効ということで、杉並区では、いろいろやっています。その人のためにもなるし、地域のためにもなると思います。いろいろなノウハウを持った人が地域から出てきて、地域で何かやっていると地域が絶対うまいかな。簡単には出ていけないし、すぐにいろいろな地域活動がうまくできるわけでもないけれど、そこをうまくやっていくのが、職員の腕にかかっているところだと思います。職員の皆さんも地域にいる我々も正解や何でも絶対にできるノウハウを持っているわけではないので、いろいろやりながら、何とかやっていける仕組みをつくっていくことが

できるといいし、そのアドバイスを我々がやれると本当は一番いいのかなと思いました。

○D委員 次回以降、論点を集約していくときには、取っ掛かりとか拠り所とかがあるといいなと思いました。あとは、前半は子ども・若者の議論で、後半大人に戻ってきたように思いますが、論点と同じように軸足の置き方が必要になってくると思いました。少しモヤモヤしたのですが、以上になります。

○議長 個人的な感想ですが、社会教育は基本的に対等な関係性が基礎になるわけで、対等な関係の自由さが価値観の落差を生み出して、気づきにつながって面白いのだと思います。本来の社会教育はそうあるべきですが、地域に行くと、大人が若者を制約し、社会的な役割が固定化されて、役割をはみ出すと怒られるみたいなのもやっぱりあるような気がします。

生きづらさというのは、社会全体目に見えない抑圧感が今の若い人にはあって、大人も今の時代についていけない感覚を持っていて、みんなが自由になれない状況があるという認識を私は持っています。そこを社会教育の力で何か突破できないかと思っています。

○E委員 自分は専門家の中にいる一般人のような気持ちでここにいます。子どものことがテーマに出ていますが、自分が親になって思うことは、親が目的ではない学びの大切さを知っておくと、子どもに何か聞かれたときに、なぜそれが大事なのか言えると思います。親が「今日こんなことを勉強してきたよ」と子どもに日常的に言えると家庭教育の面でも効果があると思いました。

○C委員 パパ向け講座も開催しているのですが、やはり意識の高い人しか出てこれないので差が開いていきます。学校教育に社会教育的な知見を持った方が入っていけば、未来が明るい気持ちでいます。子どもの成長は待ってくれないという気がして、親の違いで差をつけられないようにと思っています。

○E委員 経験談で申し訳ないのですが、公園で娘を遊ばせていたとき、子ども同士で遊ばせてあげたいと、お母さんグループから食事会に誘われたのですが、何となく断ってしまいました。子どもの話題で話せるし、行ってもよかったのに、良くない何かが働いたのでしょうかね。おやじの会やお母さんの会、どうやったら交じれるのか？無意識の何かが働いているのかな…

○B委員 それ、奥さんに話しましたか？その部分を拾わないのが一番大きな問題なのです。人と関わると、小さい違和感を必ずどこかで抱えていて、これを言う相手がいないのですよね。「なぜそう思ったの？」と聞く人もいないので事実を拾うタイミングがないのです。ちゃんと拾わないと、その違和感は置き去りで、どこかで噴き出すみたいな感じになってしまう。

○C委員 子どもたちへの言葉かけも全くそうです。「どうして？」はNGワードで事実を聞いていく。理由を内省していくことができるから、それは大人も同じです。一つ一つがつながって社会教育になっていくと思います。

○D委員 本当におっしゃるとおりだと思います。サークルやグループもちょっとした違和感とか息があっていないかと思うことをそのまま放っておくと、次はない。それをどう拾うかは、すごく大事なお話だと思います。

○議長 子どもとか、第三者がいるから気付きにつながっていいのではないかと、思って話を聞いていました。ありがとうございます。

- A委員 現場で担当されている社会教育センターの職員の方にいろいろ発表していただけると、我々も意見を言うのに刺激になるのではないかと思います。
- 社会教育センター所長 ご要望にしっかりお答えできるかどうかは分かりませんが、お話しすることはできるのではないかと考えております。
- 議長 特に大人塾のこれまでの成果と課題を聞ければと思います。次回は議論の一定の方向づけをしていきたいと思っています。
- それでは、最初に部長からご提案があった、社会教育委員の会議に愛称みたいなものをつけるというのは皆さん、どういうふうに受け止められましたか？
- E委員 イエスです。
- B委員 私は、場づくりやまちづくりは芸事だと思っているので、吉本興業みたいな名前がつくと面白いのではないかと思います。
- A委員 面白い名前をつけてキャラクターもつくって派手にやったほうがいいのではないのでしょうか？
- 議長 社会教育委員の会議と生涯学習審議会を全部合体して、多摩市は「学びあい育ちあい推進審議会」をつくっています。
- G委員 入口のフレンドリーさという意味で、お堅い社会教育委員会よりは何か親しみやすい名前にするのは賛成です。
- D委員 「社会教育」という言葉を使わない愛称が一つと逆に、あえて「社会教育をみんなで考えましょう」みたいな、社会教育を前に出すキャッチフレーズがいいのか、そういうのも考えていいのかとも思いました。
- F委員 私も賛成です。どんなことをやっているのか分かるようなものに決まるといいと思います。
- 議長 社会教育推進担当係長はどう思いますか？
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 条例で設置する附属機関ですので、正式名称は決まっています。私は社会教育という言葉を大事にしたいという思いがありますが、広めていくためには柔軟に考えることも大切だと感じています。愛称なのかキャッチフレーズなのかなど整理は必要だと考えています。
- 議長 生涯学習の時代に、社会教育は学習ではないのというのが一般的な理解ですが、学習というのは、自発性、ボランティアがなきゃいけないわけで、社会教育というと何か堅い、社会教育センターは行きづらいというのはもったいないので区民の社会参加のハードルを下げる愛称もいいのかなと思います。
- B委員 「何かすてきなサムシング」とか、そんなのでいい気がします。「目的でもないサムシングはありますよ」というぐらいがいい気がします。
- 生涯学習担当部長 今のB委員の意見がいいと思います。条例上決まっている名称なので「社会教育委員の会議」は外せないですが、楽しそう、面白そうというのが伝わらないと、いいことをやってもそう聞こえないので、考えてもらえたらいいのではないかなと思います。
- 議長 最後に、今の件も含めて、課長からご挨拶を頂きたいと思います。
- 生涯学習推進課長 人と人をつなげるのが社会教育の意義だと思います。行政も区民とつながって生の声を行政の中に生かしていく必要があるので、こうした議論の中に重要な目線があると改めて感じています。

社会教育という名称を使わないで社会教育を考えることは、本来社会教育が目指すものは何かを考える契機にもなると思います。杉並の社会教育が深まってくと思っています。今日はありがとうございました。

○議長　ありがとうございました。これで終了いたします。